

---

# 京本 20 のエッセイ 『前世の記憶』 についての真実

シー様 (借りの返せない男)

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

京本20のエッセイ『前世の記憶』についての真実

### 【コード】

N3419P

### 【作者名】

シー様（借りの返せない男）

### 【あらすじ】

意味判らん。俺が意味判らん！

母の前世の記憶、クレオパトラとか一休の母に関しては、俺が親の顔見て流れ込んだ感情を親に伝えて書かせたに過ぎない。

宇宙人に関しては、親が昔ポルターガイストみたいなのを体験して凄く気持ち悪かったという体験談を物語の冒頭に付け加えた方が良いやとアドバイスしただけ。

親は、なぜか、クレオパトラが自分の前世だと思い込んでる。

おかしい話だけれど、隕石が落ちる未来が見えて、人が不老化した未来も見えるとかホザイテイル。もうね、俺以上に頭がいかれたのかのかと感じてる。

でも、そんなの書いても証拠が無いから誰も信じないし、俺自身が本当は自分の事を信用できないのね。

だってそうだよ。前世が見えたとして、それが妄想や脳障害でなく、どうして前世だと確証を得るんだ？

俺は、そういうのでいつも気持ち悪がられて、ずっと虐められてたから、証明しようとは思わなかった。

でも、最近、信長と秀吉の真実に気付いて歴史を覆す確率が高そうな理論だと思って書いてみたのね。

でも、歴史に滅茶苦茶詳しくないと、読解そのものが難しいだろうと思うね。

ぜひ、歴史学者に読んで分析して貰いたいんだけど、そこまでするのは正直面倒なのね。だから「なるう」なんか投稿してる訳なの。

変な能力？に気づいたのは、既に物心付く頃なのだけど、感情が流れ込む様になったのは、胃の調子が悪くなって来た辺りからかな・・・  
・・・23歳くらいかな？なんでか、よう判らん。

それまでは親の顔見て映像は見えても、それが何を意味してたか判

らないのね。

感情が未発達だから、感情までは流れ込んで来ないってことなのかね？

それに3歳の時に体験した幽体離脱も不可解で通常とは違うし、気絶する前の段階で2つの視点と角度から同時進行的に窓から落ちる自分を見てた。

どうして窓の方に向かっていったのか皆目検討も付かない。

窓は網戸が張られていて、それ以上、いけないのだけど、それを自ら無理やり突き破ってまで、落ちて、コンクリートで脳天力チわりだもん。

これが後遺症で脳に障害が残って変なのが見えるのだと思うけど・

・  
前世が見えてる訳ではないと思うのね。

同じ前世の人の絵が、色んな人から見えるのは理論的に変だし・・・

俺が神だつて言うのは、当然冗談だけれど、記憶の隅っこに、神様の仕事をしてた様な記憶があるのね。

相方も居たような気もする。でも、神世界の入場料があつたかどうかなファンタジーな世界だったかと言えば、全く知らんし・・・輪廻あと7回も作り話に過ぎないね。

でも、神々戦争みたいなシーンが記憶に残ってるのよ。

もし、俺が本当に神様だったら、地球誕生前だったか別の惑星だったか、どこかで人間みたいな生き物に悪魔や天使を召還して遊んだのかもしれん。

とにかく神が大層な生き物では無いと何時も感じるのよ。

凄く気まぐれで、途方も無い時間の中でいつも「退屈」とか言ってるみたいなの・・・

「生きがいの無い様な、フワフワした最低な人間である！」と思えてしまう感覚だけは、昔から常にあるんだよね・・・  
なんで神である自分たちの存在に疑問を持たないのか、検討も付かん。

貴様ら神には己に関しての探究心が無いのかと説きたい。

自分はどこから来て、どうやって生み出されたのか、多分、神も知らないじゃないかと思う。

知らないことを、さも当然の様に受け入れてしまってる気がするww

もし、この文章を本当の神様が読んでいたら、感想にて投稿してくれ。

何、言ってるのかな俺・・・自分をキリストだと思っるのは自己愛の妄想ではないのか？

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3419p/>

---

京本20のエッセイ『前世の記憶』についての真実

2010年12月6日10時55分発行